

一人ひとり できることから始めよう

やらまい かえまい ^{せいないじ}清内路

— 村づくり指針 —



春を彩る花桃

清内路村

はじめに



本格的な行財政改革が始まろうとする平成16年秋、その年の夏に村長に就任した私の下に示された財政見通しは、毎年度1億円から2億円の赤字が生じ、基金を取り崩しても2年で底をつくという衝撃的なものでした。

阿智村との合併を公約として就任した私でしたが、合併論議を棚上げして財政再建に取り組みざるを得ませんでした。その結果補助金などの歳出カットや固定資産税の税率アップなど100項目以上に及ぶ過去に例のない厳しいものとなりました。

しかし、この取り組みの中でかけがえのない勇気と力を頂きました。それは、地域づくりの主役は住民一人ひとりにあるという当たり前のことを、住民の皆さんが自ら実践されたのです。やらまい改(か)えまい懇談会の発足により、一番清水の会や役場応援団に代表される多くの住民の皆さんによる自主的な活動が、財政危機を克服しようとして立ち向かっている村の確かな原動力となっているのです。

人口700人余の本村でありますので、基礎的自治体として歩むためには、様々な面で不合理や無理が生じ得ますので、私は合併をすべきであると強く思っていますが、その結論は村民の皆様の合意が必要不可欠であると考えます。

従って、この指針は、たとえ合併したとしてもこの清内路が胸を張って力強く歩んで行ける道標であり、清内路は不滅であると確信しております。

最後になりましたが、この指針策定にあたって多くの村民の皆様にご協力を頂いたこと、そして短期間の中で代表者会を含む計10回にわたる精力的かつ熱心にご論議いただいた計画審議会の委員の皆様にご心から感謝申し上げます。

平成19年3月

清内路村長 櫻井久江

目 次

I 基本となる考え方	-----	1
1 なぜ指針を策定するのか		
2 指針の構成		
3 指針の期間		
II 清内路村が目指す地域づくり	-----	2
1 地域づくりの基本理念		
2 地域づくりの目標		
III 地域づくりの担い手	-----	3
1 地域の力を高めよう		
2 それぞれ役割を再認識してみよう		
IV 地域づくりのとりくみ	-----	5
1 地域の宝を産業に結びつける郷づくり		
2 安心して住み続けられる郷づくり		
3 多くの人が訪れ住みついてもらえる郷づくり		
V その他のとりくみ	-----	10
1 住みやすい地域であるために考えなければならないこと		
2 公共施設等の有効利用を考えます		
VI まとめ	-----	11

【資料編】

- 1 清内路村の概況
- 2 住民アンケート結果
- 3 清内路村計画審議会委員名簿



I 基本となる考え方

1 なぜ指針を策定するのか

- 将来の地域のあり方を考える基本的な視点が必要です。

昨年、村議会で「阿智村との合併を求める決議」を採択、合併問題研究会での「中間報告」など、合併論議は新たな段階を迎えています。

大きな岐路に立つ今だからこそ、合併の是非にかかわらず、清内路が清内路らしくあり続けるための基本的な視点・目標（指針）が必要です。

- 第3次総合計画が終了します。

第3次清内路村総合計画の計画期間が平成19年度をもって終了します。平成10年度に始まったこの計画は、当時の清内路村の置かれた状況を踏まえ、必要な施策を網羅したものでしたので、これに替わる「計画」が必要です。

2 指針の構成

村づくりの基本理念や目標の他に、今回の指針では村民と行政の協働による地域づくりを前面に掲げて、自治組織の確立など、その担い手の育成に力点を置いています。続く目標ごとの施策や公共施設等の有効利用からなる地域づくりのとりくみ、資料編等から構成されています。

3 指針の期間

第3次総合計画との整合性、継続性を考慮し、合併議論なども視野に入れながら、平成19～28年度までの10か年を見据えた指針とします。

なお、個々のとりくみについては、この指針を基に5か年ごとの計画等で具体化します。

Ⅱ 清内路村が目指す地域づくり

1 地域づくりの基本理念

一人ひとり できることから 始めよう
せいないじ
～ やらまい かえまい 清内路 ～



「最近顔を見ていないおばあちゃんに声をかけてみよう」そんなささいなことから始まる地域づくり、一人ひとりの能力に応じ、できることから始めようとする姿勢によって、息の長い地域づくりを継続します。

行財政改革のスローガン「やらまいかえまい清内路」を加えることで、財政危機を経験した住民の知恵と勇気を将来につなぎ、さらに「改」を「か」にあらため、改革だけにとどまらない「新しい清内路」の始まりを内外に示します。

2 地域づくりの目標

(1) 地域の宝を産業に結びつける郷づくり

私たちの地域にはたくさんの宝物があります。

最近、伝統野菜である清内路あかねを利用した焼酎「あかねちゃん」の完成など明るいニュースも増えてきています。

宝物を有効に活用し地域の活性化につなげることを考えるとともに、将来の清内路を支える組織づくりをすすめ、少し明るくなってきた地域をもっと元気な地域へとみんなで盛り上げていきましょう。

(2) 安心して住み続けられる郷づくり

住み続けられる地域をつくるためには、まず一人ひとりの力が必要です。家族での話し合いや、隣近所での協力、支え合いがなくては考えられません。

また、楽しい地域や元気な地域、安心安全な地域であることも大切ではないでしょうか。これからもこの清内路に住み続けたい、自分の子どもや孫、そしてみんなが住みたいと感じる地域づくりを考えていきましょう。

(3) 多くの人を訪れ住みついてもらえる郷づくり

これからの地域づくりは「住み続けられる地域」を考えることも大切ですが、訪れてもらえる地域、住んでもらえる地域を作っていくことも大切です。

また、自ら学ぶことや、交流に出かけることも大切です。そこで得たことや人とのつながりはお金にはかえられないすばらしいものです。この清内路に多くの人に移り住み、週末には多くの人を訪れる、そんな地域づくりをみんなで考えていきましょう。

Ⅲ 地域づくりの担い手

1 地域力を高めよう

地域づくりは行政だけで行えることではありません。

一人ひとりの力から始まり、色々なレベルの取り組みがあってこそ成り立つものです。

今はこれを支える地域力を高めることが大切です。

村づくりの基本となる地域力をどうしたら高めることができるか、みんなで考えていかなければなりません。

住民意識の改革と人材の育成 — 一人ひとりの力を高めよう —

現状は 村の財政難をきっかけに、地域づくりに関する意識が高まりました。しかし、まだまだ能力や思いが十分に発揮できていないのではないのでしょうか。

対策は 「地域づくりは人づくり」住民や役場職員一人ひとりが地域に誇りを持ち、地域づくりについて考え、行動できるように「学び」「語り」「交流」の3つを基本に意識の改革と人材育成にみんなで取り組みましょう。社会教育活動や、どこでも村役場など様々な機会を利用して、より多くの学習の場を設け、多くの人と交流し一人ひとりの意識や能力の向上を図りましょう。

一人ひとりの力を結集 — 住民グループの力を高めよう —

現状は 行政といっしょに行う地域活動や住民主体のグループ活動が芽を出しています。

対策は 様々な能力や技術を持っている仲間がたくさん集まった「住民グループ」づくりを考えてみましょう。こうした「住民グループ」の活動を盛り上げるために、先進事例や講師の紹介、各種制度や法的なことについては、関係機関と調整し行政が支援します。

地域の問題は地域で解決 — 自治の力を高めよう（自治組織確立） —

現状は 清内路には財産管理を目的とした「区会」はありますが、全世帯が加入できる自治組織がありません。過疎化・少子化が進み、集落を維持することが困難になると予想されます。

対策は これから地域を支えていくのは、行政だけではなく住民一人ひとりです。地域の問題を見つけ解決していく姿勢「住民自治」が必要とされています。区会関係者や一般住民からなる自治組織について、研究・検討を行うための組織を早急に立ち上げられるように考えましょう。

2 それぞれ役割を再認識してみよう

地域づくりを考えていく中で、一人ひとりができることや、住民グループ、自治組織での取り組みが考えられます。また行政が取り組むこともあります。それぞれの取り組みについて確認してみましょう。

自分でできることは
自分でやろう

地域でできることは
地域でやろう

地域づくりを
支援します

- ◇個人でのとりくみ
 - 助け合いへの協力
 - 健康づくりをしましょう
 - ゴミ拾い・分別
- ◇家庭でのとりくみ
 - 家の周辺の美化
 - 行事への参加
 - 祭りや伝統を家庭の中から教えてみましょう
 - 地域づくりを家族で考えてみましょう

- ◇気の合う仲間同士で
- ◇行政にはない発想を
- ◇自由に地域のことを考えてみましょう
- ◇できることを、できる範囲でやってみよう

- ◇みんなが参加できる組織を考えよう
- ◇地域の問題を考えよう
 - 地域内の環境美化活動
 - 道路や水路の維持修繕
 - 公民館などの管理
 - 地域の活動を活発化させる様々な企画と活動

- ◇各種計画に基づく事業の実施
- ◇住民では対応できない専門的なことを対応する
- ◇住民主体の活動を財政面や人的面から支援する
- ◇住民との対話の中から施策をつくる
- ◇住民グループや地域（自治組織）と話し合い、必要な公共サービスを提供する



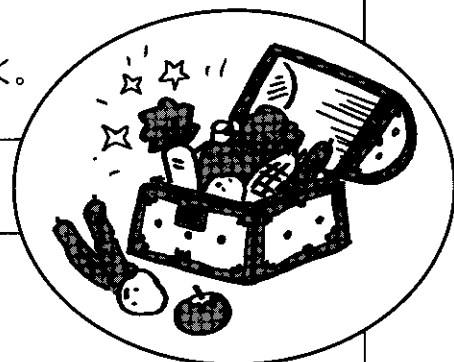
IV 地域づくりのとりくみ

1 地域の宝を産業に結びつける郷づくり

(1) 清内路の宝を使って地域を盛り上げよう

- 現状は 多くの宝があるのに、地域の収入に結びついていません。
今後、清内路の宝が他の地域の宝になってしまうのではないかと不安です。
- 対策は 宝（資源）→ ・花桃、清水、桜、郷土食、【国指定】小黒川こくろかわのミスナラ
ふるさと村自然園など
- 話し合い → ・宝を守りながら、活かして収入に結び付けられないか考えてみましょう。儲けることは清内路の活性化につながるはず、みんなで収入につながることを考えてみましょう。
・花桃の発祥の地は清内路。もう一度、みんなで管理できるような方法を考えましょう。
- 行動する → ・農産物を買ったり、花桃の苗を栽培したり、郷土食を作って観光客に売ってみるなど、収入につながることに意欲的に挑戦してみましょう。
・自然園を清内路の観光の拠点として、より多くの観光客が訪れてもらえる施設になるよう、みんなで考えましょう。
- 組織づくり→ ・“宝物”をうまく活用するため、いつまでも清内路の地域で守って行くためには、その仕組みや組織が必要です。誰かが作ってくれるものではありません。自分たちで作りに上げていきましょう。

目指す姿 住民主体の振興組織が地域づくりを先導していく。



(2) 伝統野菜を守り育て活かそう

- 現状は 過疎化が進み、生産者が減少しています。
- 対策は 伝統野菜 → 清内路あかね、かぼちゃ、うり、みょうがなど。
守ろう → 農協や部会と協力したり、先輩たちの技術を学び受け継ぎ、自ら生産に挑戦してみましょう。
伝統野菜などの※ブランド化を検討します。
- 育てよう → 遊休荒廃地を有効利用しましょう。
- 活かそう → 宝を売ってみよう。加工してみよう。体験イベントを考えよう。
あかね焼酎のような製品化を考えてみましょう。
起業・組織づくりに取り組みましょう。

目指す姿 伝統野菜を守り育てることで、遊休荒廃農地を復活し多くの人に清内路ならではの野菜を味わってもらおう。直売所、産地直送など売れる仕組みを作る。

※ブランド化 = 品種登録などを行うことで、付加価値を持たせること。

(3) 山を有効に活用しよう

- 現状は 手入れが行き届いていない山が目立ち、樹木の病気や災害の危険があります。
- 対策は 守ろう → 森林組合や県の林務課と相談し、手遅れ林を解消しましょう。
補助事業をうまく利用し、自分の山は自分で手入れしましょう。
- 育てよう → 樹木の病気や災害に強い山をつくりましょう。
みどりの少年団活動や植樹祭をみんなで盛り上げましょう。
- 活かそう → 広葉樹を利用し、炭焼き・椎茸栽培など**挑戦**してみましよう。
※トレッキング環境の整備、人が集まる**山づくり**をしましょう。
宝（山菜や花木）を売ってみましよう。

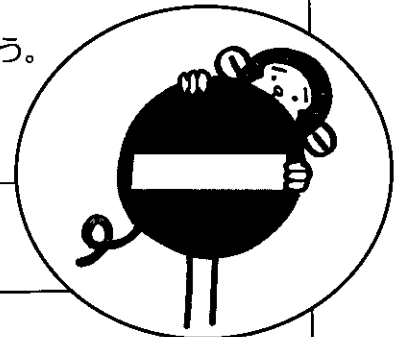
目指す姿 山を手入れすることで災害に強い山を作り、**地域の収入**にもつなげる。

※トレッキング = 山登りや山を散歩すること。

(4) 有害鳥獣から農作物（森林）を守ろう

- 現状は 農林業被害により、多くの住民が悲しい思いをしています。
- 対策は 獣から守る → みんなで適切な対処方法を**研究**しましょう。
村の補助制度を検討し、**重点課題**として取り組みます。
- 獣を捕獲 → 猟友会と相談。罠の資格に**挑戦**しましょう。
- 獣を有効利用 → 村の**宝**に変えられないか考えてみましよう。
- 農地の利用 → 遊休荒廃農地の現状を調べます。
農業をしたい人に土地を貸してあげましよう。

目指す姿 安心して農林業のできる環境をつくる。



(5) 清内路の貴重な空地进行を有効に利用しよう

- 現状は 峠の大きな空地2か所を始め、利用方法が決まらない空地が沢山あります。
- 今後は 整備 → 利用できる環境を整えます。
- 情報発信 → みんなの**情報網**やホームページで、企業誘致やその他の有効利用ができないか**検討**してみよう。
- 利用する → 自分たちで何かに利用できないか考えてみましよう。

目指す姿 企業誘致や宅地造成に有効利用され、雇用対策・人口の増加につながる。

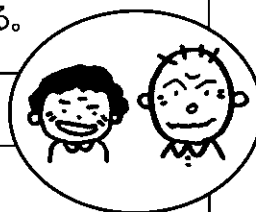
2 安心して住み続けられる郷づくり

(1) みんなが安心して暮らせる地域をつくりましょう

現状は 診療所の診察は週2日だけ、急に具合が悪くなったら村外の医療機関まで行かなければなりません。また、巡回バスで多くの方が医療機関を利用しています。

対策は 考える → 住民・医療関係者・行政などで、今後の清内路村における医療体制について共に考えていきましょう。
予防する → 一人ひとりが日頃から健康づくりを心がけましょう。
健康診断に積極的に参加しましょう。
巡回バス → 利用しやすい環境づくりを考えます。
情報基盤 → 地上デジタル放送やケーブルテレビについて共に考えましょう。

目指す姿 健康な地域で、緊急時の対応が確実にできる体制が整っている。



(2) 高齢者の住みやすい地域をつくりましょう

現状は 高齢化が進み、高齢者だけの世帯や独居老人世帯が増えています。

対策は 生活を支える → 社協のデイサービスを中心に、介護サービスの充実を進めます。
除雪や声掛けなど、地域の支え合いの中で行なう仕組みをみんなで考えましょう。
参加する → イベントや行事を高齢者と共に盛り上げましょう。
語り合う → 昔話や、昔からの技術を教えてもらいましょう。
野菜や郷土食の作り方を教えてもらいましょう。
高齢者同士や若い人との交流を積極的に行ないましょう。

目指す姿 元気な高齢者が笑顔で、生きがいを持って生活している地域。

(3) 子どもたちの声が響きわたる地域をつくりましょう

現状は 子育ての悩みを相談できたり、働いている間、子どもの保育をしてくれる環境が不十分です。

対策は 相談体制 → 保育所が中心となって、専門家や経験者が相談に応じてくれる環境を整えます。
お母さんやお父さん同士、育児について語り合いましょう。
支える → 保育所での3歳未満児保育の充実や、お互いに子供を看られる仕組みをみんなで考えましょう。
医療費 → 中学3年生までの医療費の無料化を継続します。

目指す姿 子育て支援の充実により産み育てる人が増えたり、村外から魅力に感じてもらえるような地域。

(4) 教育環境の維持に努めましょう

現状は 少子化や過疎化のため、**複式学級化**や**中学校の統合**など教育環境の維持がむずかしくなっています。

対策は 複式学級解消 → 村で雇う教員の配置を行い、複式学級とならないよう努めます。
中学校統合 → 小・中学校において阿智村との交流を行うなど、統合に向けて準備を進めます。
中学生高校生 → **地域との絆**を絶やさないよう、地域の中で交流できる環境をみんなで考えましょう。
小学校存続 → いつまでもこの地に小学校を残せるように努力しましょう。

目指す姿 充実した教育環境を行政と地域が支える。

(5) 貴重な文化や歴史をもう一度見直そう

現状は 古くから伝わる**貴重な文化**や**歴史**が少しずつ忘れられています。また、**継承**がむずかしくなっています。

対策は 教えよう → 若い世代に昔からの伝統や文化を伝えましょう。
学ぼう → 先輩から、技術や昔話を聞いてみましょう。
生まれ育った**地域に興味を持って**調べてみましょう。
参加体験 → 昔からの行事や伝統に**参加**したり**体験**して、後世に伝えることができるように、みんなで考えましょう。

目指す姿 伝統文化、歴史を自ら学び、後世に伝えられる地域。



3 多くの人が訪れ住みついてもらえる郷づくり

(1) 積極的に交流しよう

現状は 村外の人や団体との交流が増えてきています。

対策は 話そう → 村外の人とたくさん話をしてみましょう。
聞けることは素直に聞いてみましょう。
行 動 → いっしょに汗をかいてみましょう。
手伝ってもらえることはお願いしてみましょう。
村外や県外へも積極的に交流に出かけましょう。
体験イベントを計画します。
伝えよう → 清内路の良さをいっぱいアピールしましょう。

目指す姿 お互いの良い所を伸ばし合い、地域の活性化がはかれる。

(2) 仲間を増やそう

現状は 地域を支える担い手が足りません。

対策は 教えよう → 清内路の良さを若い世代に教えてあげましょう。
仲間づくり → 新しい仲間が住みやすい地域をつくりましょう。
結 婚 → 出会いの場をつくります。積極的に参加しましょう。
お互い知り合いを紹介しましょう。
雰囲気 → 新しい仲間が溶け込みやすい環境を考えましょう。

目指す姿 みんなが住みたいと感じる地域。

(3) 空家を有効に使おう

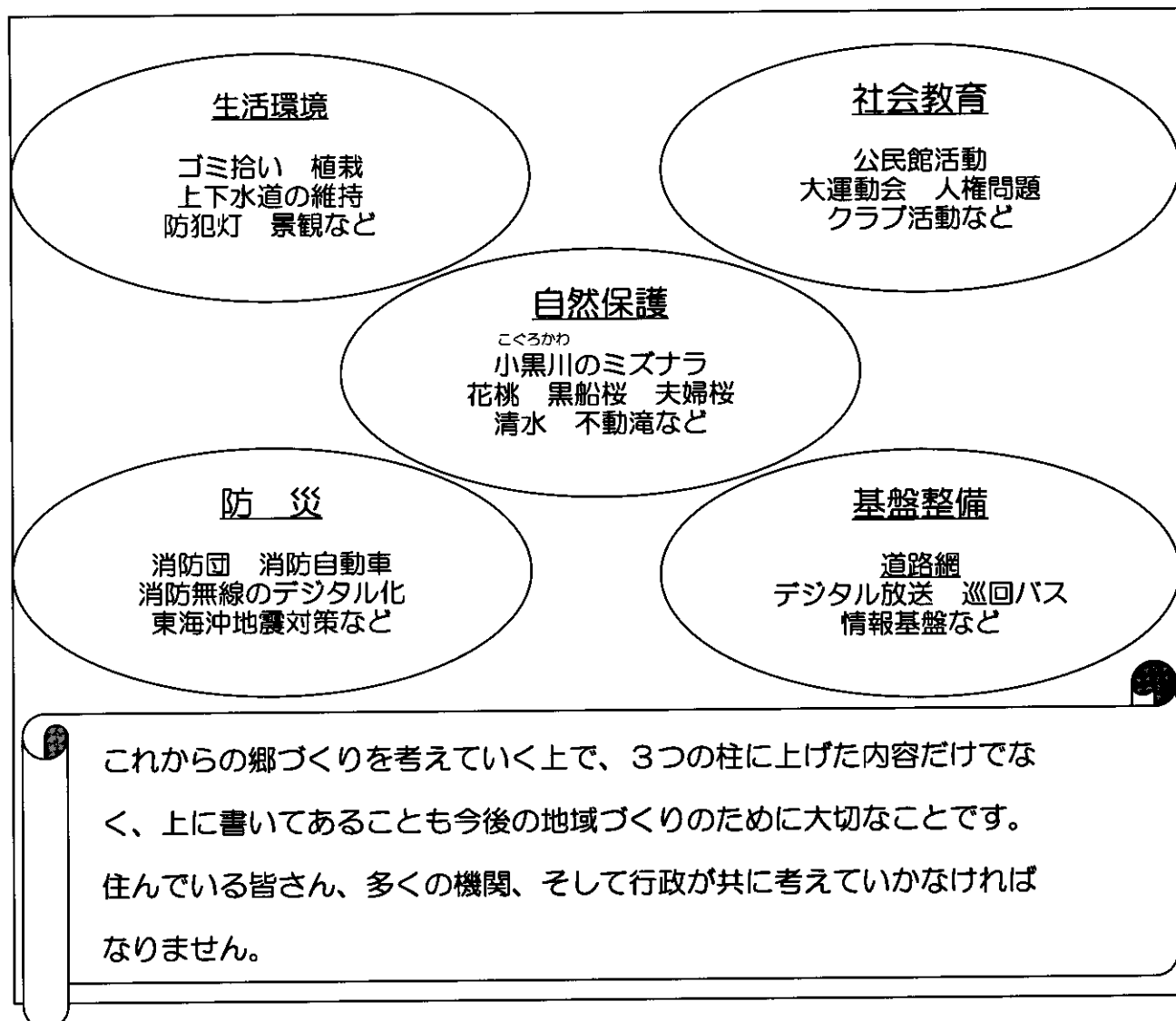
現状は 空家がたくさん存在しています。

対策は 調査する → 空家の持ち主が必要としているのかどうかを調べます。
守ろう → 出づくりの文化が消えないように考えましょう。
利用しよう → 必要のない空家は誰かに住んでもらいましょう。
幅広い機関と連携して有効利用を考えます。
活かそう → 清内路の良さ、田舎の良さを多くの人に知ってもらい
ましょう。

目指す姿 空家が減り、定住・交流人口が増加する地域。

V その他のとりくみ

1 住みやすい地域であるために考えなければならないこと



2 公共施設等の有効利用を考えます

平成22年4月には、清内路中学校が阿智中学校に統合の予定です。

その後利用については、今後の地域づくりの中で重要な位置づけとなります。

また、この問題は中学校の後利用と言うことに留まらず、役場や、その他の公共的施設等の活用についても大きな影響を与えることが考えられます。

このため、住民・関係団体・行政による研究組織を立ち上げ、この問題に対して検討を行ないます。

Ⅵ まとめ

- ほぼ4か月を費やしてつくられた「村づくり指針」が、机上の空論に終わることなく実行に移されるかどうかは、まさにこれからの私たちにかかっています。指針の完成は終わりではなく出発を意味しています。
- アンケートに答えられた住民の皆さん、指針の作成にかかわられた計画審議会の皆さん、助言やご指導をいただいた関係機関や村民の皆さんに改めて感謝を申し上げますと共に、今後の指針の具体化に向けてのご協力とご理解をお願いするものです。
- 農業集落排水事業の不祥事、財政危機、行財政改革など、村を揺り動かしてきたさまざまな事象が、凶らずも「地方自治」本来の姿を取り戻そうとする動きの中で語られ始めようとしています。それはまだ萌芽にすぎないまでも、将来、新しい「自治組織」の構築等によって結実していくことでしょう。
- 合併問題も同様です。「地方自治」本来の機能を有し、清内路がその特色を失うことなくあり続けるための自治体の枠組みとは何か。指針がめざす地域づくりがどのような行政体でより有効に働くかが問われています。
- 仮に合併を選択した場合においても、指針はこの地域の持続的発展を推進する「道しるべ」として、その存在意義を失うものではありません。

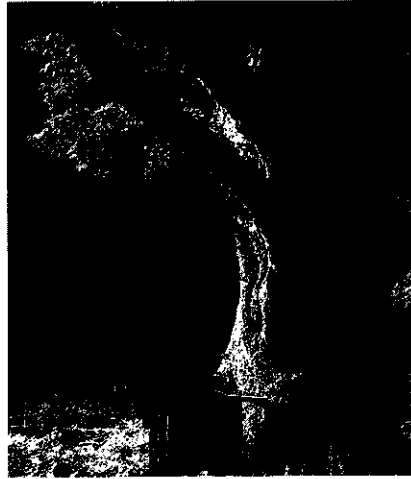


3 清内路村計画審議会委員名簿

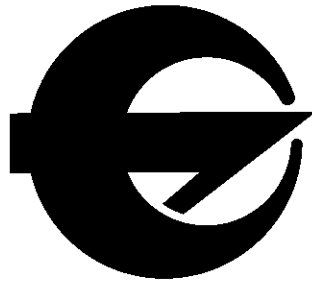
区 分		氏 名	備 考
村 議 会		原 登 美 彦	
		原 利 正	
公共的団体 有識者	福祉・医療関係者 住民ボランティア	櫻 井 成 人	
	農協関係者	櫻 井 道 治	
	林業関係者	原 文 雄	会 長
	商工会、住民活動グループ	野 村 和 男	副会長
	教育委員、伝統文化継承者	原 章 博	
	Uターン者、高齢者	櫻 井 谷 男	
	女性活動グループ	原 未	
	保護者、消防団、 伝統文化継承者	原 和 寛	
	上清内路区会	原 勝 城	
	下清内路区会	櫻 井 喜 美 夫	
村長特認	やらまい改えまい懇談会	櫻 井 弘 志	
公 募		原 京 子	
		原 千 代 子	
		樽 澤 和 子	



計画審議会の会議風景（役場）



こぐろかわ
国の天然記念物 小黒川のミズナラ



〒395-0401

長野県下伊那郡清内路村375-1

TEL 0265-46-2001 FAX 0265-46-2016

Eメール info@seinaiji.jp

ホームページアドレス <http://www.seinaiji.jp/>